

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームはるこでまり	評価実施年月日	平成19年10月16日
評価実施構成員氏名	猪股久美、本間潔、堀民子、石井茂、能登浩子、塚越利恵子、井岡未希、佐々木美恵子、吉田和子、田澤綾子、尾美登美子、山内公乃		
記録者氏名	猪股 久美	記録年月日	平成19年10月17日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人の理念を基に、グループホーム独自の理念がある。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>会議などで話し合い、再確認をしその実現を目指している。</p>		
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族に関しては、その時折の会話の中で、大切にしていることなどを伝えている。また、家族が面会時にみることができるよう、ユニット玄関の近くに、理念を掲示している。地域に関しては、今年度は交流を積極的に行っているが、理念の浸透にはいっていない。</p>		<p>地域への理解のため、啓蒙活動など検討していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>入居者と散歩している時に、挨拶をしたり、玄関前にベンチをおき、近所の人々が休憩などしている。しかし、日常的な付き合いとはいえない。</p>		<p>日常的になるよう、ボランティアの導入を検討していきたい。</p>
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>近隣の保育園との交流、町内会の行事や地域の活動、グループホーム開催の行事などで交流をしている。</p>		<p>地域の花壇うえ、町内会のレクリエーション(日帰り温泉)</p>
<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域との交流は増えてきているが、地域の高齢者等の暮らしへの役立つことに関しては行っていない。</p>		<p>今後は、一緒に出来ることなど検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価で自分を見直し、ユニット毎に話し合っている。外部評価の結果から、出来ていないところ等を話し合い改善している。</p>	<p>昨年の外部評価では、地域交流が少ない為様々な活動を展開している。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>自己評価や外部評価について、会議の中で説明し、助言などがある。</p>	<p>委員の町内会長から町内会の行事への参加を呼びかけてくれている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者の運営推進会議への参加はないが、介護保険制度のわからない事など常に出向いて確認し、アドバイスを受けている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内の研修で一部の職員は学んでいるが、職員全員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての理解が乏しく、学ぶ機会も現在行っていない。</p>	<p>学習会や外部への研修など行い入居者のよりよい支援につなげていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>防止には努めているが、学ぶ機会は行っていない。</p>	<p>今後は、学ぶ機会を持ち、防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、入居に際しての質問などは聞くようにしている。また、解約に至る時も同じで、時には主治医に相談し行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人では、第3者委員を設け、グループホーム内にも苦情受付担当者を設置している。また、年度毎に委員会を開催し、第3者委員から意見を求め改善につなげ、サービスの向上に努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康面などは面会時、緊急時等は電話で報告している。1ヶ月に1回は、広報誌を作成し、日々様子を伝えている。お小遣いを管理している入居者については、1ヶ月ごとに納表を作成し報告している。職員が新しく採用した場合や異動は、広報誌で知らせたり、家族が来訪時に挨拶をしている。また、ユニット内に職員の写真をはり、家族がわかりやすくしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族懇談会を年に2回開催し、意見等を聞いている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のグループホーム会議や毎日の申し送りなどで聞き、入居者のサービス向上、職員の働きやすい環境になるよう努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	少ない人数で、出来る限り行っているが、不十分なこともある。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職に関しては、年々若干減少してきている。異動は年に1～2回程度にしている。その際は、環境の変化に困難な入居者については、すぐには関わらないなど配慮している。		離職がなく、安定するよう努力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内の研修会は、職員の経験年数別に、毎月様々な内容で行われている。グループホーム内でも、学習会の年間計画を立て行っている。また、道のグループホーム協議会の研修などに参加している。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	外部の研修の際などで、交流を持っている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	日々悩みなどに耳を傾けるように努めている。親睦会もあり、ストレスの解消の場となっている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	面談などを行い、取り組みを行っていると思う。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	初めて会う人であるため、信頼してもらえるよう努力している。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	家族も同様で、信頼してもらえるよう努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	どのような生活を送りたいかを確認し、ニーズに合わせたサービスを検討している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ユニットリーダーが事前に自宅に訪問し、現在の本人の状況や様々な環境、家族からも状況を聞き把握している。入居時の混乱を最小限にするため、引越し時などの相談もこまめに行っている。また、職員全員で把握し、居心地の良い場所ができるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の家事や会話などから、学ぶことが多い。		古くからの慣習など教えてもらい楽しくみのある生活を支援していきたい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	焼肉パーティーなどの家族交流会や誕生日には、ユニット内でお祝いしたり、時には一緒に出かける機会をもうけている。		今後も積極的に行えるように努めていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会の際には、会話をもち情報を共有し、良い信頼関係ができるよう努めている。		一緒に出かける機会など増やし、より良い関係の構築の向上を目指す。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	子供の頃や入居前に住んでいた場所、自宅の畑での作業、いきつけの美容室に行ったり、よく食べていたものを提供したり、外食に行ったり、家族の写真を貼ったりなどの支援をし、これまでの生活を大切に思い支援している。		情報が少なく、支援が少ない入居者への支援に取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	無理せず本人のライフスタイルを大切に、時に利用者同士が関われるように支援している。		今後も入居者同士好感がもてる様支援していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院のため、解約をした際などお見舞いに行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から聞いたり、介護計画の見直しの際にも改めてきている。その希望などから、それぞれの入居者への援助の方針を定め、本人の思う生活の実現になるよう話し合い、実現に向け取り組んでいる。		具体的に、自宅畑の作業、外食、喫煙、飲酒、静かに過ごせる環境など
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には必ず聞いていく。また、入居後も本人や家族から聞いている。その内容はカルテや記録に記載されており、職員全員把握している。		ケアハウスから入居した方は、クラブ活動を継続している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝夕の申し送り、心配りを忘れずに常にさりげない見守りをし、状況を把握し共有している。特に表情など。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族から意向を確認、介護支援専門員をもとに、カンファレンスを開催し、課題分析を行い、介護計画を作成している。作成後は介護支援専門員及び管理者が確認をしている。		常によりよい介護計画を目指している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は、概ね3ヶ月毎に見直しをしている。心身の状況の変化に伴い、その都度見直しをしている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	パソコンソフトを導入し、毎日個別記録を記入、見直しに役立てている。		今以上に、介護計画にそった記録を目指していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買物や外出など、本人や家族の要望に出来る限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の中学校の文化祭に参加したり、保育園との交流、ボランティアドッグが月1回訪れている。犬とのふれあいを楽しんでいる。		今後、現在の交流を深め、またボランティアの導入を検討していく。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	行っていない。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの関わりはない。		権利擁護などについて、今後検討していく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	それぞれ主治医があり、受診・往診を受けている。9月からは常勤で看護師があり、日常の健康管理が行われている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域にはいなく、必要時精神科医や主治医に相談している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	9月から常勤で看護師があり、日常の健康管理を行っている。		医学的なことを学び介護力を強化していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	その都度認知症の症状を伝え、相談するようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	9月に指針を作成している。一度指針をもとに、学習会を開催しているが共有までいたっていない。		いつでも対応できるよう方針を共有し深めていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアの学習会など準備は行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>なじみの家具をもってきてもらうなどし、今までの生活環境にできるかぎり近づくようにしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いは、指示や命令にならないよう特に注意している。個人情報の記入した用紙などは見える場におかないなど徹底している。記録もパソコン管理をしており、職員のみがみることができる。</p>		<p>今後も言葉遣いや声の大きさ、威圧的な態度にならないよう支援していく</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来る限り本人の言葉を引き出し、自己決定を促している。その際はゆっくりと話し、表情などをよく見るようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の様子や天候などに考慮し行っているが、時には職員のペースになっていることがある。</p>		<p>職員のペースを優先することなく、希望にそって支援を行っていききたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>なじみの店に行っている人は、一部の人である。髪の設定、化粧の支援などその人らしい支援は努めている。</p>		<p>本人の希望する美容室等にいけるよう支援していく。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好みの物を聞き、献立に取り入れたり、嫌いな食事は別な食事を提供している。嚥下や咀嚼にあわせた形態を提供している。また、野菜を切るなどの調理や盛り付け、食器洗いをし、達成感がもてるよう支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒やタバコは、楽しめるよう支援している。		おやつに関しても、入居者の意見を聞き行っていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を用意し、パターンの把握をしている。また本人のしぐさなどからもパターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。汚染した時には、すぐに対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯はきめている。しかし、一人で入りたい方には、さりげなく見守りをし、一人で入浴できるようにしている。また、一人ひとりのタイミングは合わせている。皆楽しめている。		入りたい入浴時間を確認していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自室で休息している時は、さりげなく様子を見守っている。身体状況を考え、お昼ねなど取入れている。また、ソファで寝ている場合など、安全に眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買物や家事など、それぞれ役割がある。歌を歌う、読書など趣味を行い楽しみのある生活を送っていると思う。外出の機会は増えている。		今以上に力が発揮できるように支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の入居者は、お金を持ち、心豊かな気持ちでいる事が出来ている。ある入居者は職員にお礼の気持ちでお金を渡している。本来はしてはいけないことであるが、本人の気持ちを大切に思い、受け取り家族にそっと返している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日と考えると外出はできていない。しかし館内が広く、散歩は毎日している。また、本人が外出したいときに、職員の状況などで出来ないときがある。		希望に添えるよう検討していきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	3ユニット合同で日帰り、一泊温泉にいたり、くだもの狩りなどにもいっている。個別では博物館にいたり、海を見に行ったりしている。しかし、家族が共に出かけるということは少ない。		家族の負担にならないよう、共に外出できるよう検討していく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自室に電話を設置している人は、家族などに電話するなどしている。手紙など書いた際には、ポストに出すなどの支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者は、各居室でゆっくり団欒できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内、グループホーム内に委員会があり、定期的に話し合っている。その内容は、他職員にも周知している。		人権を尊重しながら、事故なく過ごせるか検討し、勉強を重ねていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることは、身体拘束の一部ととらえ、行っていない。夜間の一人になる時間、感染症が出た場合は、安全を守る上で行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーを守り行っているが、時折事故がある。また、一人の入居者に、注意を向けてしまうことがある。		プライバシーを守り、事故を防いでいく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室内で危険なものは、個々にあわせ、保管及び管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント報告、ヒヤリハット報告をその都度記載し、事故防止委員会で分析及び検討し共有している。また、緊急時や防災時のマニュアルがあり、学習会など開催し、周知している。		事故がゼロになるように、意識を高める必要がある。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当などのマニュアルや学習会はあるが、「実際おこったら」と思うと、自信がない。		学習会や訓練など、現実的におこない自信を持てるよう取り組んでいく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回避難訓練をしている。地域の協力体制はできていない。		地域への働きかけを行っていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	特変時など常に家族へ連絡し、確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定や観察を行い、体調を確認し、朝・夕の申し送りや記録で情報を共有している。		今以上に情報を共有し、早期発見を目指していく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとり服薬の意識を高め支援しているが、全ての内容の理解はできていない。		薬の学習会などを開催し、理解を深めていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	バランスのよい食事の工夫、水分、適度な運動を毎日支援している。また個々の便秘の及ぼす影響をカンファレンスなどで話し合い対応している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの声がけ、見守り、介助など能力に応じ行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量一人ひとりの状態にあわせ行っている。		調理での工夫や代替品などの提供を行っている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルに基づき、手洗いやうがいを行っている。また洗面所やトイレ、手すりの消毒も1日数回行っている。インフルエンザ予防接種を入居者及び職員は行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日ふきん、まな板は次亜塩素酸で消毒している。1週間に1回は冷蔵庫の整理及び清掃をしている。食材も買い置きはさけ、生鮮食材は毎日使用の都度購入している。食器は食洗器で乾燥はしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>花や緑の葉を植え、明るく開放的な雰囲気作りの工夫をしている。夏季は玄関横にベンチを置き、誰でも座れるようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関や居間に、季節の花や壁掛けで季節を感じられるようしている。カーテンなどで光の調整をし、換気にも注意している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間のソファ、食卓、和室の小上がり、廊下の隅に一人がけのソファなどおき、自由に過ごせる空間があり、思い思いに過ごしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>長年使っていた家具や仏壇など自由におき過ごしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないうように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居間や居室には気になる臭いはないが、トイレや下駄箱が臭う時がある。居間や各居室に室温計があり、1日数回確認し快適な生活を支援している。</p>		<p>脱臭や冬季の乾燥対策を検討していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
個別支援で、一人ひとりが自信を持って、そして力を引き出す関わりをしている。